

# 作文における児童の感情形容詞の使用傾向の分析

加藤恵梨(愛知教育大学) 角谷昌範(愛知教育大学附属岡崎小学校)

## 1. はじめに

本研究の目的は、作文における児童の表現力の発達を感情表現に注目して明らかにすることである。感情表現に注目する理由は3つある。1つ目は、同じような状況の時に抱く気持ちを児童がどのように表現するかという、語彙の獲得状況の把握に繋がるためである。2つ目は、感情表現は主観的で表現しにくいからこそ、児童の表現力が如実にあらわれる。よって、児童の表現力の変化を知るのに有効である。3つ目は、どんな時にどんな感情を抱くのかという、児童自身を捉えることに役立つためである。

児童作文の語彙の種類や使用頻度を調査・分析したものに、国立国語研究所(1989)や富士原ほか(2016)等がある。先行研究では、主に学齢の進行による自立語の使用状況の発達について報告されており、感情表現の学齢別の使用傾向及び使い方について調査・研究しているものは管見の限り、みられない。また、宮城(2020)は児童・生徒の作文を分析し、主体の心理状態の直接的な表現はほぼ形容詞で構成されていることが特徴であると述べている。よって、本研究では、感情表現の中でも感情を表す形容詞および形容動詞(以下、感情形容詞と呼ぶ)に注目し、作文における児童の感情表現の学齢別の使用傾向及び使い方について分析を行う。

## 2. 調査資料について

本研究が調査資料とするのは、愛知教育大学附属岡崎小学校が発行している児童文集「ひばり」(2019年から2023年の5年分)の中の生活作文(1・2年生は「おうちで」、3~6年生は「家庭生活」に分類されているもの)149編である。その内訳は、1年生38編、2年生31編、3年生29編、4年生16編、5年生14編、6年生21編である。

## 3. 感情表現の分類

分析にあたり、『感情表現新辞典』に基づき、感情を「喜び」「怒り」「哀れ」「怖さ」「恥ずかしさ」「心惹かれる気持ち」「不快に感じる気持ち」「昂り」「安らかに落ち着く感じ」「驚き」という10に大別する<sup>1</sup>。それらの分類を用い、児童が用いている感情形容詞がどの感情に分類されるのか、どのような感情表現を多く用いているのかを明らかにする。

## 4. 分析

### 4.1 児童が使用している感情

分析の結果、児童が用いている感情は、「喜び」(以下〈喜〉とする)、「哀れ」(以下〈哀〉とする)、「怖さ」(以下〈怖〉とする)、「恥ずかしさ」(以下〈恥〉とする)、「心惹かれる気持ち」(以下〈好〉とする)、「不快に感じる気持ち」(以下〈厭〉とする)、「安らかに落ち着く感じ」(以下〈安〉とする)の7つであり、「怒り」「昂り」「驚き」は使っていなかった<sup>2</sup>。

### 4.2 学齢別の使用状況

#### 4.2.1 低学年

1年生と2年生が用いている感情形容詞の、使用人数順の上位10位は次の表1と2の通りである<sup>3</sup>。1・2年生ともに最も多く用いているのは「うれしい」であり、その他にも「たのしい」「(大)すき」というプラスの感情を表す表現を多く使っている。「かなしい」「こわい」などのマイナスの感情を表す表現も使っているが、プラスの感情表現と比べると使用人数は少ない<sup>4</sup>。

<sup>1</sup> 『感情表現新辞典』は10のうちのどの類にも収まりきれない微妙な感情や、複数の異なる感情が融合した複雑な感情を、〈複合〉として一括している。

<sup>2</sup> 「怒り」には「腹立たしい」「不愉快」「面白くない」など、「昂り」には「じれったい」「もどかしい」「歯痒い」などがある。『感情表現新辞典』の「驚き」には感情形容詞は含まれていない。

<sup>3</sup> 一人の児童が作文の中で何度も同じ感情形容詞を使っているというケースもみられる。本研究では、感情形容詞の学齢別の使用傾向を示すことを目的とするため、使用回数順ではなく、使用人数順の結果を示す。

<sup>4</sup> 〈喜〉〈好〉〈安〉はプラスの感情、〈厭〉〈哀〉〈怖〉〈恥〉はマイナスの感情とみなす。

表1 1年生(全38編)が多く用いている感情形容詞

	感情形容詞	感情	使用人数	使用数
1	うれしい	喜	19名(50%)	32回
2	たのしい	喜	15名(39%)	30回
3	(大)すき	好	12名(32%)	29回
4	かなしい	哀	5名(13%)	6回
5	おもしろい	喜	4名(11%)	7回
	はずかしい	恥	4名(11%)	4回
7	こわい	怖	3名(8%)	5回
	きもち(が)いい	喜	3名(8%)	3回
	いや	厭	3名(8%)	3回
10	くやしい	厭	2名(5%)	2回
	かわいそう	哀	2名(5%)	2回
	不安	怖	2名(5%)	2回

感情別にみると、1年生は〈厭〉〈喜〉〈哀〉〈怖〉〈好〉〈恥〉〈安〉という7つを使っている。詳細を以下に示す。

- ・厭(6語):「いや」(3名/3回),「くやしい」(2名/2回),「きらい」(1名/4回),「つらい」(1名/2回),「残念」(1名/2回),「くるしい」(1名/1回)
- ・喜(4語):「うれしい」(19名/32回),「たのしい」(15名/30回),「おもしろい」(4名/7回),「きもち(が)いい」(3名/3回)
- ・哀(3語):「かなしい」(5名/6回),「かわいそう」(2名/2回),「さびしい/さみしい」(1名/2回)
- ・怖(3語):「こわい」(3名/5回),「不安」(2名/2回),「心配」(1名/1回)
- ・好(2語):「(大)すき」(12名/29回),「うらやましい」(1名/1回)
- ・恥(1語):「はずかしい」(4名/4回)
- ・安(1語):「大丈夫」(1名/1回)

一方の2年生は、〈厭〉〈喜〉〈哀〉〈怖〉〈好〉という5つを使っている。詳細は以下の通りである。

- ・喜(4語):「うれしい」(12名/16回),「たのしい」(9名/12回),「おもしろい」(1名/1回),「きもち(が)いい」(3名/3回)
- ・厭(4語):「いや」(2名/4回),「くやしい」(2名/3回),「つらい」(2名/3回),「きらい」(1名/1回)
- ・哀(2語):「かなしい」(4名/4回),「さびしい/さみしい」(3名/3回)
- ・怖(1語):「こわい」(4名/10回)
- ・好(1語):「(大)すき」(10名/18回)

1年生と2年生は〈厭〉と〈喜〉を表す感情形容詞を多く用いていることがわかる。

#### 4.2.2 中学年

3年生と4年生が用いている感情形容詞の、使用人数順の上位10位は次の表3と4の通りである。

表3 3年生(全29編)が多く用いている感情形容詞

	感情形容詞	感情	使用人数	使用数
1	うれしい	喜	15名(52%)	25回
2	たのしい	喜	12名(41%)	17回
3	(大)すき	好	8名(28%)	17回
4	いや	厭	7名(24%)	10回
5	さびしい/さみしい	哀	5名(17%)	8回
	くやしい	厭	5名(17%)	8回
7	心配	怖	4名(14%)	7回
	おもしろい	喜	4名(14%)	6回
9	かなしい	哀	3名(10%)	3回
10	大丈夫	安	2名(7%)	4回
	こわい	怖	2名(7%)	3回
	残念	厭	2名(7%)	3回
	はずかしい	恥	2名(7%)	2回
	かわいそう	哀	2名(7%)	2回
	うらやましい	好	2名(7%)	2回
	心強い	安	2名(7%)	2回

表2 2年生(全31編)が多く用いている感情形容詞

	感情形容詞	感情	使用人数	使用数
1	うれしい	喜	12名(39%)	16回
2	(大)すき	好	10名(32%)	18回
3	たのしい	喜	9名(29%)	12回
4	こわい	怖	4名(13%)	10回
	かなしい	哀	4名(13%)	4回
6	きもち(が)いい	喜	3名(10%)	3回
	さびしい/さみしい	哀	3名(10%)	3回
8	いや	厭	2名(6%)	4回
	くやしい	厭	2名(6%)	3回
	つらい	厭	2名(6%)	3回

表4 4年生(全16編)が多く用いている感情形容詞

	感情形容詞	感情	使用人数	使用数
1	うれしい	喜	6名(38%)	17回
2	たのしい	喜	4名(25%)	10回
	(大)すき	好	4名(25%)	6回
4	かなしい	哀	2名(13%)	2回
	つらい	厭	2名(13%)	2回
	心配	怖	2名(13%)	2回
7	さびしい/さみしい	哀	1名(6%)	2回
	こわい	怖	1名(6%)	2回
	きもち(が)いい	喜	1名(6%)	1回
	残念	厭	1名(6%)	1回
	はずかしい	恥	1名(6%)	1回
	大丈夫	安	1名(6%)	1回
	安心	安	1名(6%)	1回
	大満足	喜	1名(6%)	1回

感情別にみると、3年生は〈厭〉〈喜〉〈哀〉〈怖〉〈好〉〈恥〉〈安〉という7つを使っている。

- ・喜 (5語) : 「うれしい」 (15名/25回), 「たのしい」 (12名/17回), 「おもしろい」 (4名/6回), 「きもち (が) いい」 (1名/1回), 「しあわせ」 (1名/1回)
- ・厭 (4語) : 「いや」 (7名/10回), 「くやしい」 (5名/6回), 「残念」 (2名/3回), 「きらい」 (1名/1回)
- ・哀 (3語) : 「さびしい/さみしい」 (5名/8回), 「かなしい」 (3名/3回), 「かわいそう」 (2名/2回)
- ・怖 (3語) : 「心配」 (4名/7回), 「こわい」 (2名/3回), 「不安」 (1名/1回)
- ・好 (2語) : 「(大) すき」 (8名/17回), 「うらやましい」 (2名/2回)
- ・安 (2語) : 「大丈夫」 (2名/4回), 「心強い」 (2名/2回)
- ・恥 (1語) : 「はずかしい」 (2名/2回)

一方の4年生においても、〈厭〉〈喜〉〈哀〉〈怖〉〈好〉〈恥〉〈安〉の7つを使っている。

- ・喜 (4語) : 「うれしい」 (6名/17回), 「たのしい」 (4名/10回), 「きもち (が) いい」 (1名/1回), 「大満足」 (1名/1回)
- ・厭 (2語) : 「つらい」 (2名/2回), 「残念」 (1名/1回)
- ・哀 (2語) : 「かなしい」 (2名/2回), 「さびしい/さみしい」 (1名/2回)
- ・怖 (2語) : 「心配」 (2名/2回), 「こわい」 (1名/2回)
- ・好 (1語) : 「(大) すき」 (4名/6回)
- ・安 (2語) : 「大丈夫」 (1名/1回), 「安心」 (1名/1回)
- ・恥 (1語) : 「はずかしい」 (1名/1回)

3・4年生が最も多く用いているのは「うれしい」であり、その他にも「たのしい」「(大) すき」というプラスの感情を使っている。この点は低学年と同じであるが、中学年になると低学年よりもマイナスの感情の使用が増えている。また、中学年が用いている〈喜〉の感情表現をみると、低学年では用いていなかった「しあわせ」や「(大) 満足」を用いていることがわかる。さらに、中学年では〈安〉の感情を表す表現の使用が増え、「大丈夫」だけではなく、「心強い」や「安心」が使用されている。「心強い」や「安心」という感情は、「自分が守られている」という様子を客観的に捉えることができるからこそ感じることができる。中学年になると自己を客観視できるようになるため、これらの表現の使用がみられると考えられる。

#### 4.2.3 高学年

5年生と6年生が用いている感情形容詞の、使用人数順の上位10位は次の表5と6の通りである。5・6年生が最も多く用いているのは「うれしい」であり、その他にも「たのしい」の使用が多い。この点は先ほどみた低・中学年と同じである。

表5 5年生 (全14編) が多く用いている感情形容詞

	感情形容詞	感情	使用人数	使用数
1	うれしい	喜	7名 (50%)	13回
2	たのしい	喜	6名 (43%)	12回
3	きもち (が) いい	喜	4名 (29%)	5回
4	(大) すき	好	3名 (21%)	9回
	おもしろい	喜	3名 (21%)	4回
6	いや	厭	2名 (14%)	2回
7	しあわせ	喜	1名 (7%)	2回
	さびしい/さみしい	哀	1名 (7%)	1回
	すがすがしい	喜	1名 (7%)	1回
	きらい	厭	1名 (7%)	1回
	くやしい	厭	1名 (7%)	1回
	せつない	厭	1名 (7%)	1回

表6 6年生 (全21編) が多く用いている感情形容詞

	感情形容詞	感情	使用人数	使用数
1	うれしい	喜	7名 (33%)	13回
2	たのしい	喜	6名 (29%)	14回
3	かなしい	哀	5名 (24%)	5回
4	おもしろい	喜	4名 (19%)	4回
5	(大) すき	好	3名 (14%)	6回
6	さびしい/さみしい	哀	2名 (10%)	2回
	こわい	怖	2名 (10%)	2回
8	不安	怖	1名 (5%)	2回
	いや	厭	1名 (5%)	1回
	残念	厭	1名 (5%)	1回
	きらい	厭	1名 (5%)	1回
	大丈夫	安	1名 (5%)	1回
	なつかしい	好	1名 (5%)	1回

感情別にみると、5年生は〈厭〉〈喜〉〈哀〉〈好〉という4つを使っている。

- ・喜 (6語) : 「うれしい」 (7名/13回), 「たのしい」 (6名/12回), 「おもしろい」 (3名/4回), 「きもち (が) いい」 (4名/5回), 「しあわせ」 (1名/2回), 「すがすがしい」 (1名/1回)
- ・厭 (4語) : 「いや」 (2名/2回), 「きらい」 (1名/1回), 「くやしい」 (1名/1回), 「せつない」 (1名/1回)
- ・哀 (2語) : 「かなしい」 (1名/1回), 「さびしい/さみしい」 (1名/1回)
- ・好 (1語) : 「(大) すき」 (3名/9回)

一方の6年生においても、〈厭〉〈喜〉〈哀〉〈怖〉〈好〉〈安〉という6つを使っている。

- ・喜 (3語) : 「うれしい」 (7名/13回), 「たのしい」 (6名/14回), 「おもしろい」 (4名/4回)
- ・厭 (3語) : 「いや」 (1名/1回), 「残念」 (1名/1回), 「つらい」 (1名/1回)
- ・哀 (2語) : 「かなしい」 (5名/5回), 「さびしい/さみしい」 (2名/2回)
- ・怖 (2語) : 「こわい」 (2名/2回), 「不安」 (1名/2回)
- ・好 (2語) : 「(大) すき」 (3名/6回), 「なつかしい」 (1名/1回)
- ・安 (1語) : 「大丈夫」 (1名/1回)

高学年では低・中学年と異なり、「(大) すき」の使用が少なくなっている。また、〈喜〉の感情表現において、低・中学年では用いられていなかった「すがすがしい」を使用している。その他にも、〈厭〉の感情表現において新たに「せつない」の使用がみられ、〈好〉の感情表現においては新たに「なつかしい」の使用がみられる。このように、高学年では低・中学年では用いていなかった新たな感情形容詞を使用している。なお、高学年では〈恥〉を用いていない。感情としてもちあわせているが、〈恥〉を知られたくないという思いが芽生え、あえて述べていないと考えられる。

## 5. まとめ

以上のように、児童は〈喜〉の感情を表す表現を多く用いており、その中でも「うれしい」という感情形容詞を最も多く使っている。学齢別にみても、児童が使用している感情形容詞に大きな違いはないが、学齢があがるにつれて使用している感情形容詞が増えている。その逆に、使わない語も出てくる。これは、精神的な発達により、あえて使わなくなったのだと考えられる。このように、児童の語の使用は習得だけではなく、選択という側面からも捉えることができる。

また、児童が最も多く使用している〈喜〉の感情を表す「うれしい」の用法においても、低学年では次の(1)のように、感情を素直に文章に綴るといった方法で表現しており、わかりやすいが、淡々とした、一面的な印象を受ける。

- (1) せんせいが すごいと いいました。 わたしは とても うれしいです。 きょうの いちにちは とても うれしいです。 こんごも がんばります。 (1年生, 72号)

それに対し、高学年になると、次の(2)のように自身の感情ではなく、他者(2)では犬)の感情を表現するのに用いたり、自身の感情を表す際にも次の(3)のように単に「うれしい」と表現するだけではなく、「飛び上がるほどうれしかった」のように読み手に伝わりやすく表現している。

- (2) 七月、いまさら気づいたことなのですが、まゆはおじさんが好きで、近所のおじさんを見つけるとうれしそうに近寄って、服従のポーズのおなかを見せることをします。 (5年生, 70号)

- (3) 上級の一つ上のクラスに上がれるのは、驚きと同時に、飛び上がるほどうれしかったです。 (6年, 71号)

さらに、高学年になると感情表現に幅が生まれ、次の(4)の「ぼくは思わず飛び上がった」のように感情形容詞を使わずに自身の感情を表したり、次の(5)のように感情を表す表現を使わずに自身の思いを表していることもわかった。

- (4) その二週間後、ナスに実ができた。ぼくは思わず飛び上がった。うれしさのあまり跳んでしまった。

(6年生, 72号)

- (5) 大山古墳に行って、いろいろなことを学び、考えることができました。 (6年生, 70号)

本研究では感情形容詞に注目して調査・分析を行ったが、今後は感情形容詞以外の感情を表す表現の習得及び使用状況についても明らかにしていきたいと考える。

## 参考文献

国立国語研究所 (1989). 児童の作文使用語彙 東京書籍

中村明 (2022). 感情表現新辞典 東京堂出版

富士原紀絵・宮城信・松崎史周 (2016). 児童生徒作文の基礎的研究—児童生徒作文コーパスの構築と活用— 子ども学研究 紀要, 4, 9-20.

宮城信 (2020). 課題作文の感情・感覚・評価を表す表現の使用状況 富山大学人間発達科学部紀要, 15(1), 125-131.